

1-8					
主題	一般デイの家族及びケアマネジャーに 認知症デイを理解してもらう取り組みと効果				
副題	認知症とともに自分らしく生き生きと暮らすために				
キーワード 1	認知症	キーワード 2	デイサービス	研究(実践)期間	50ヶ月

法人名・事業所名	社福) 東京援護協会 前野高齢者在宅サービスセンター
発表者(職種)	大野陽(生活相談員)、山本美智子(生活相談員)
共同研究(実践)者	小池睦美(管理者)、橋本麻子(生活相談員)及川雅美(看護師)、他

電話	03-5392-8736	FAX	03-5392-2070
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	平成3年に区立在宅サービスセンターとして開設。通常規模型通所介護と認知症対応型通所介護を運営している事業所です。認知症対応型通所介護では、学習療法を取り入れて認知症進行予防に取り組んでいます。介護職員は両方のデイを兼務しており、移行する利用者にも顔なじみの職員が対応することで不安なく過ごすことができます。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

通常規模型通所介護(以下、一般デイ)で活動に参加できず、帰りたいたと強く願うようになり、トイレも頻回になったところ認知症対応型通所介護(以下、認知症デイ)への移行を勧めると、ほぼ「まだ早い」とケアマネジャー(以下、CM)や家族から断られていた。25名の集団の中で「わからなくなっていることがわかっている」利用者の気持ちを家族やCMが理解するためには時間を要した。一方、軽度のうちに最初から認知症デイを利用した方は不安を抱えながらも自分のペースで自分らしく過ごすことができていた。認知症の方は多くいるはずなのに認知症デイは常に空いていた。そのため、敬遠されがちな認知症デイについて、利用者や家族が理解するための方法や一般デイから認知症デイに早期移行してもらうためのアプローチ方法などが課題となっていた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

認知症があっても自分らしく生き生きと暮らして欲しいのは誰しもが願うことである。しかし、認知症デイは重度の認知症の方の施設という認識が多い。そこで軽度の方でも居心地よく過ごしている実態を示す必要がある。「まだ早い」という言葉を発する背景はどこにあるのか。一般デイと認知症デイの違いを検証し、CMや家族の思いと私たちとの見立ての相違をすり合わせていくことで、利用者の不安な気持ちやつらさを伝える方法を確認すれば、スムーズに移行できるのではないかと仮定し、取り組みを行なった。

《3. 具体的な取り組みの内容》

平成27年4月から毎月1回ケース検討会と企画会議を一般デイ・認知症デイ職員で実施。

(1) 職員の意識改革とケア技術の向上

・全職員で状態変化の共有。・CMにこまめに状況報告。・認知症（認知症デイのあり方）の研修の実施。

（2）一般デイでの取り組み

・利用者に日常の会話やケアで認知症デイへの先入観や不安を払拭するように働きかけ。

（3）認知症デイでの取り組み

・プログラムを一般デイと同じにして導入の混乱を防ぎ、顔なじみの職員を配置する。

・作品を広報誌や作品展に展示し「できる」ことを家族、CM、利用者に発信し認識してもらう。

・認知症進行予防のため学習療法を導入する。

（4）家族への取り組み

・家族懇談会で認知症・認知症デイの勉強会、見学会の実施。

（5）CMへの取り組み

・一般デイの利用者の状態変化をきめ細かくタイムリーに伝える。見学会を実施。

《4. 取り組みの結果》

（1）移行期間の短縮化

上記の取り組みを定期的かつ反復的に丁寧に行なうことにより、3～4年かかっていた移行が半年に縮まった。

（2）ADL維持

一般デイでの本人の不安な時間が短くなったことにより、この期間3年以上認知症デイで過ごしている4名中4名がADLを維持できた。

（3）認知症デイ利用の増加と一般デイからの移行者の増加

平成27年5月認知症デイの利用率42.5%平均介護度3.7から令和元年5月利用率86.7%平均介護度2.6になり、一般デイからの待機者がでるまでになった。

《5. 考察、まとめ》

「まだ早い」の家族の思いには「認知症」という現実が受け入れがたいことと認知症デイにいったら進行してしまうという思いがあること、CMの「まだ早い」は認知症デイが理解されていないことがわかった。認知症デイでは本人のペースで安心して生活できていることを知ってもらうことができた。さらに本人のできることが増え自信を取り戻し、他者を思いやることもできるようになり軽・中・重度の方全員相乗効果で活性化された認知症デイになった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(関係者)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

認知症とともに生きる希望宣言 <http://www.jdwg.org/statement/>

「尊厳ある介護」2019年 里村佳子著 岩波書店

《8. 提案と発信》

認知症の方は増えているにもかかわらず、平成28年度通所介護事業所の経営状況についての報告によると、認知症デイの平均利用率は61.9%である。認知症とともに自分らしく生きていくために認知症デイを上手に利用することを声を大にして言いたい。自分も含め誰もが認知症とともに生きるかもしれない未来のために安心できる認知症デイを築いていきたい。